



「平成28年度以降の森林環境税の在り方について」うつくしま県民意見公募

応募意見一覧及び県の対応

H27.7.14

福島県農林水産部森林計画課

	応募者	御意見の内容	県の対応
1	福島市在住	<p>(6 ページ)</p> <p>第2 森林環境税を財源とした既存施策の評価 2 森林資源の活用による持続可能な社会づくり (4) 木とのふれあいの創出</p> <p>原発事故以来、森との絆が薄くなっていると考えます。森との絆の回復には、森林との直接的なふれあい以外にも、森の果実である木材をより身近なものにすることも重要です。特に幼児、年少者への日常的なふれあいの機会を拡大し、将来を担う子どもたちが森の恵みを実感できるようにすべきと考えます。</p> <p>本県には、会津の桐材の家具、二本松家具など地域の木材を活用した産業がありますが、保育所などの施設では、地域の木材を使用したイス、テーブルが少ないことや特殊規格なので木製品を利用できないなど選択の幅が少ないと聞きます。</p> <p>そこで、小さな時から地元の木製品にふれあう機会を拡大するため、市町村、家具製造団体との連携や支援を進めるべきと考えます。</p>	<p>御意見の趣旨を、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</p>
2	矢吹町在住	<p>(13ページ)</p> <p>第3 次期対策に当たっての基本的な考え方 2 森林資源の活用による持続可能な社会づくり</p> <p>東日本大震災のあと、県内のいろいろなところで太陽光発電のパネルを見るようになりました。</p> <p>県も、自然エネルギー100%を目指していると聞いたことがあります。</p> <p>しかし、そのために森林が切られてなくなってしまうようなことはあってはならないと思います。</p> <p>全国各地でゲリラ豪雨が発生し、山崩れで人命が奪われる被害が発生するなど、地球温暖化の影響が大きくなっているように感じます。</p> <p>震災で自然エネルギーが注目されるようになったからこそ、大切な森林をしっかりと守り、計画にあるように持続可能な社会を作りたいと思います。</p>	<p>御意見の趣旨を、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</p>

	応募者	御意見の内容	県の対応
3	只見町在住	<p>只見町は平成23年7月新潟・福島豪雨を受け災害に見舞われました。身近な里山が被災源となる生活習慣の近代化と感じました。以前は、里山が薪炭材の供給地でエネルギー源であり食糧源ともなり山と共に生活できたものです。したがって、環境税導入後、里山の整備事業が進展して効果を上げております。</p> <p>近年の山離れ、木離れにより個人では扱うことのできない危険木の存在があります。人家周辺や社寺仏閣等道路沿線に目につくようになりました。これらの公益的な施設周辺の除去が進むことを期待します。</p> <p>当地は辺地・豪雪地帯で、近隣の都市（会津若松市等）まで2時間近く車移動が要求されます。人命に関しても同様です。特に冬の期間は道路が生命線ですが道路脇の立木や山からの流水で凍結している個所が多くあり、熟練の運転手でも危険を感じます。これらの生命線沿線の日陰地を作る針葉樹等の除伐が進むことを期待します。</p> <p>森林環境学習の点では、以前は小中学校に「学校林」があり、育林等を通じて生活の中から学ぶことができたものです。現在は望むことはできないでしょうが、各地にある「生活環境保全林」等の再整備に活用をお願いしたい。</p> <p>遊歩道への木質チップ・草木名札・たまり場等、森林の果たす役割等の周知の場を作り、子供たちの身近なところで学習する環境が必要ではないでしょうか。</p>	<p>御意見の趣旨を、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</p>
4	南会津町在住	<p>森林環境税により、各地域で森林整備など公益的機能の持続的発揮ならびに循環型社会づくりに積極的に取り組み、森林環境は少しずつではあるが改善に向かっている。</p> <p>しかし、全体の中では手入れがされていない森林が各所で多く見られ、森林環境形成が今後の大きな課題となってきた。</p> <p>このような状況のなか、「第3 次期対策にあたっての基本的な考え方」が示され、平成28年度以降の森林環境税による取り組みが継続されるとのことであるが、7つの主要施策の展開の中で「森林浴（森林散策）」という地域の森林（里山）を利活用した地域健康作り等の方策もあってもいいのではないかと。自然療法の一つである「森林浴（森林散策）」をすることにより、心や体を癒やし活力ある生活を目指すとともに、地域の里山や森林を整備するなど住民自らが自主的に利活用することができ、森林と人間とのインタープリティションにも大きく貢献できる。</p> <p>※インタープリティション： 直接体験や教材を通し、物事や事象の背後にある意味や関係を明らかにすることを目的とした教育活動</p>	<p>御意見の趣旨を、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</p>

	応募者	御意見の内容	県の対応
5	いわき市在住	<p>(13ページ) 第3 次期対策に当たっての基本的な考え方 4 県民参画の推進</p> <p>自分たちが子供のころは、野山が遊び場で山菜や木の実を採ることができた。今の山は暗く、竹も侵入し荒れている。大人でも山に入る者が少なくなっている。この状態から山を再生していくのは、大変な状態であると考えられる。</p> <p>身近に山があるが、山の恩恵を理解していない人が多くなっているように感じられる。山の恩恵を理解していない人が親から山を相続しても山の荒廃に歯止めがかかるとは思えない。小さい子供から大人まで、身近にある山の恩恵を教える機会、山に入る機会を森林環境税を使って、もっと多く作るべきだと思う。</p> <p>山への理解が進めば、山に人が入り、手入れがもっと進み再生につながっていくのではないだろうか。</p>	御意見の趣旨を、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
6	いわき市在住	<p>(5ページ) 第2 森林環境税を財源とした既存施策の評価 2 森林資源の活用による持続可能な社会づくり (1) 間伐材搬出の支援</p> <p>木材価格が低迷していることから、間伐材の有効活用と、山元の森林整備意欲の向上のため、間伐材搬出の支援をもっと拡充してほしい。</p> <p>(7ページ) 第2 森林環境税を財源とした既存施策の評価 3 市町村が行う森林づくり等の推進</p> <p>公共施設の県産材による木造化、内装木質化など、木材の利用に対する支援を拡充してほしい。</p>	御意見の趣旨を、今後の施策推進の参考とさせていただきます。